

石田啓祐*: 徳島県坂州南西におけるシルル系石灰岩の発見

Keisuke ISHIDA : Discovery of the Silurian limestone in the southwestern part of the Sakashu district, Tokushima Prefecture, Shikoku

(1977 年 2 月 23 日受理)

徳島県那賀郡木沢村坂州周辺には、大小さまざまな黒瀬川構造帯レンズ状部が知られている(山下, 1950, 1952; 市川ほか, 1956; 平山ほか, 1956). 従来, これらのレンズ状部にはシルル系石灰岩は知られておらず, 徳島県では, 勝浦郡の^{すべりだに}三谷レンズ状部でのみ確認されている(山下, 1946).

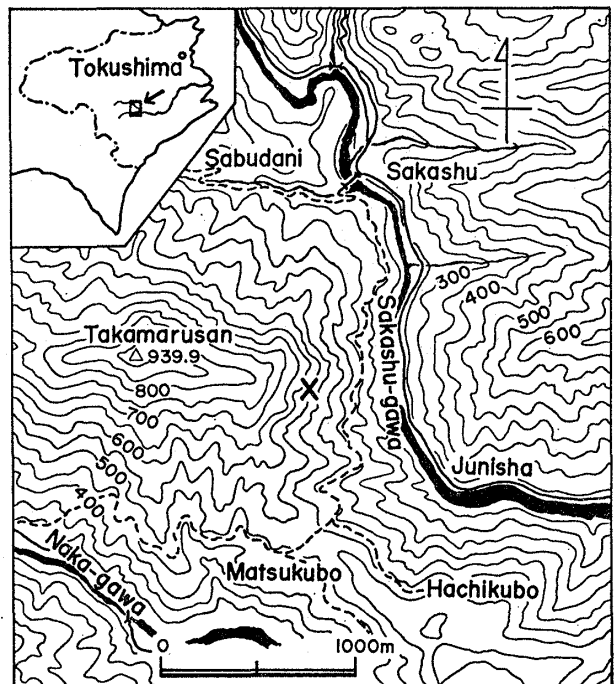
筆者は, 1977年2月, 坂州一平谷**地域の地質調査中に, 高丸山^{たかまるさん}レンズ状部*** (山下, 1950; 市川ほか, 1956; 平山ほか, 1956) においてシルル系石灰岩ならびにそれをうらづける化石を発見した. とりあえずその概況を報告し, 今後のシルル紀研究のお役に立てたい.

これまでの報告によれば, 高丸山^{ひあかり}レンズ状部の南西約 1.8 km に位置する高丸山(別名, 日明山) 939.9m を中心として, 幅 500m, 延長 1,500m の東西に長いレンズ形をしており, 大部分が三滝火成岩類に属する圧碎された花崗閃緑岩から成ると考えられていた. しかしながら, 今回の調査では, レンズ状部の南方への分布はさらに広く, 幅 1,200m 以上に及び, その南半部は流紋岩****や酸性凝灰岩****によって構成されることが判明した. これらは, 岩相上シルルーデボン系と推定される.

今回発見された石灰岩体は, 幅約 50m, 延長約 200m のレンズ形をしており, 層厚 45m 以上である. また, これは三滝火成岩類と流紋岩および酸性凝灰岩の分布の境界付近に位置する. 一般に, 三滝火成岩類とは断層で接するが, 標高 520m 付近では, 暗緑色細粒の酸性凝灰岩の上に成層するのが観察される. 上限は露出不良のため確認されていない. 下位の酸性凝灰岩中にも厚さ 1~2m の石灰岩レンズが数枚挟在する. それらのうち, 酸性凝灰岩中に挟在するものや, 岩体の下位の部分は淡灰~白色で, 比較的結晶質である. 岩体の中ほどから上部

にかけては淡灰~淡赤色をしており, また, 上位にむかって角礫状の部分が増加する. 最上位には, 厚さ数 10 cm で葉理の発達した暗赤色基質をもつ凝灰質石灰角礫岩が存在する. 角礫状石灰岩は, 緑色や暗赤色の凝灰質ないし粘土質の物質によって膠結されている. 基質の量は一般にきわめて少なく, 礫どうしがモザイク状にかみ合っている. 石灰岩礫の色調は, 白, 淡灰~暗灰, 淡赤~赤色と多様である.

これまで採集した化石は, *Schedohalysites kitakamiensis*, *Halysites* sp., *Favosites* sp., *Heliolites* sp., 四放サンゴ, 層孔虫, 腕足類, 腹足類である. 多くは露頭そのものではなく, 直下の小谷を埋めている転石から採集されたが, *Halysitidae* の床板サンゴは露頭でも確認されており, また, 岩質が一致すること, 周辺には他の石灰岩体が全く存在しないことから, これらの転石が上



第 1 図 露頭位置図

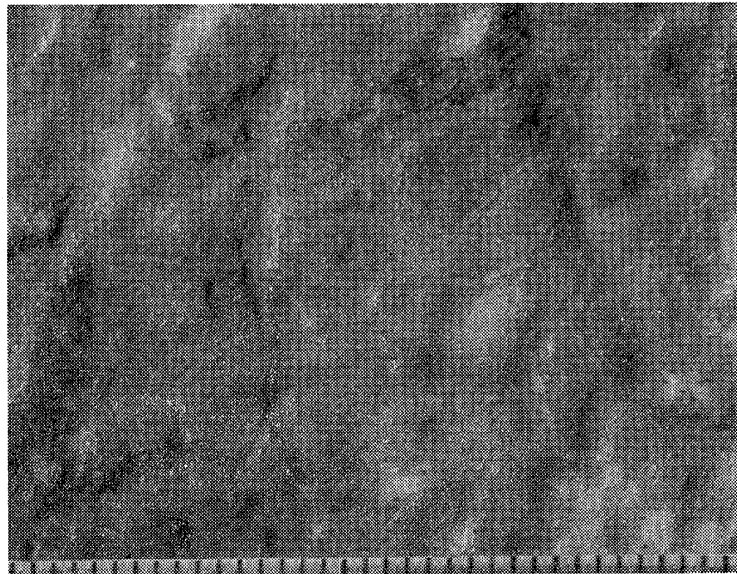
×印: 露頭位置 (33°48'52"N, 134°17'56"E)

* 信州大学理学部地質学教室

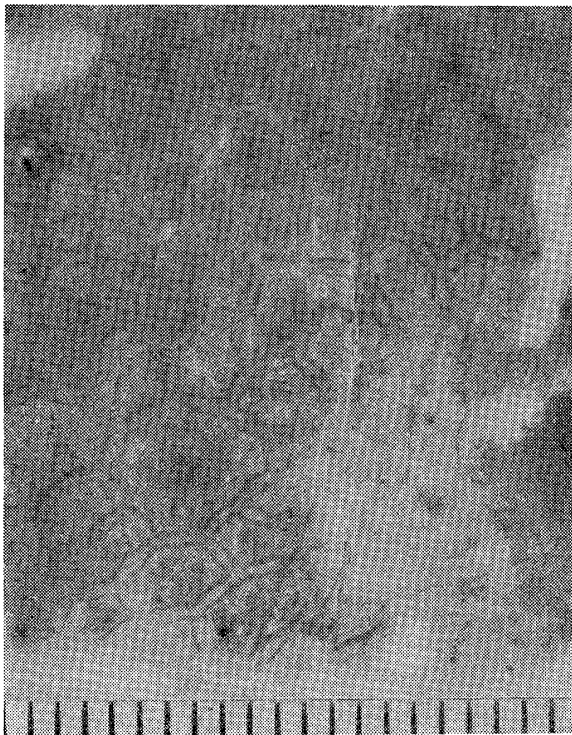
** 那賀郡上那賀町平谷, 坂州の南 4 km にある.

*** 山下 (1950), 市川ほか (1956) は高丸山火成岩体と呼んでいる.

**** これらの火山岩および火山砕屑岩については, 別の機会に記載する予定である.



第2図 *Schedohalysites kitakamiensis* (SUGIYAMA)
風化面。スケールは1目盛が1mm



第3図 *Halysites* sp.

研磨面。スケールは第2図と同じ

記の石灰岩体に由来することは疑いない。化石は淡赤～赤色や淡灰色の隠晶質石灰岩から多く発見される。また、凝灰質石灰角礫岩の基質からも、四放サンゴ、腹足類を採集した。

以上に記載したとおり、この石灰岩は、山下ほか(1952)

によって総括された四国のシルル系石灰岩の諸特徴ときわめてよく一致する。

今後は、採集した化石について同定を急ぐとともに、石灰岩体内部の詳細な調査を行なう予定である。西南日本外帯シルル系の層序と分帯に関する研究は、浜田(1959)によってすでに行なわれており、それらとの対比も必要となろう。

報告にあたって、信州大学理学部地質学教室山下昇教授には原稿を校閲していただいた。同教室藤田敬技官には写真撮影を指導していただいた。記して厚くお礼申し上げる。

文 献

- 浜田隆士, 1959: 西南日本外帯ゴトランド系の層序と分帯. 地質雑, **65**, 688—700.
- 平山 健・山下 昇・須鎗和巳・中川衷三, 1956: 徳島県剣山図幅および同説明書. 徳島県, **52p**.
- 市川浩一郎・石井健一・中川衷三・須鎗和巳・山下 昇, 1956: 黒瀬川構造帯. 地質雑, **62**, 82—103.
- 山下 昇, 1946: 徳島県に於ける后島紀層の発見. 同上, **52**, 17.
- , 1950: 徳島県木頭地方の地質. 同上, **56**, 189—192.
- , 1952: 徳島県の黒瀬川構造帯. 同上, **58**, 286.
- ・石井健一・市川浩一郎・中川衷三, 1952: 四国のゴトランド紀層にかんれんする二三の事実. 同上, **58**, 132.